



北小倉バンドの演奏

北小倉地区は、三郷14地区の北西にあり、南小倉、東小倉と境を接し、北は堀金地域の田多井地区に隣接している。西は黒沢山、鍋冠山系の山林に繋がり、人口641人、238世帯(2014年10月1日現在)で、果樹栽培が盛んな地区である。

最大の行事「花見大会」は「鎮守山公園」の愛称で親しまれる「北小倉公園」で行われ、区民の7割を超える400人余りの参加者で賑わいを見せた。豚汁を振る舞い、詩吟にバンド演奏、カラオケやゲーム、山野草の展示と文化祭にも勝る盛況ぶりであった。

北小倉地区公民館

地区公民館だより



アグリパークで体験学習

公民館の特徴として産業部があり、産業視察旅行を開いている。今年7月「新潟・弥彦神社・寺泊・出雲崎の旅」を催行し、開館したばかりの農業体験施設「アグリパーク」を訪問した。農作業や家畜の世話、食品加工を体験することで、地域の農業・食文化を理解し地元への愛着と誇りを持てるように、子どもから大人まで幅広い年齢層が体験できるプログラムがあり、就農支援の参考になる施設見学であった。

敬老会等での二胡の演奏やSPレコード鑑賞、ビデオシアターの上映、女性部による寄せ植え講習会も開いている。年2回、公民館報を発行して地域の活動状況を発信し情報の共有に努めている。(北小倉地区公民館長 松尾貞夫)

野菜に魅せられて 農業体験講座

堀金公民館は6月から11月にかけて下堀地区田甫集会所裏の圃場で「農業体験講座」を開き、16人が参加している。農業指導者の浅川利男講師の指導を受けながら、



トウモロコシの種蒔きから収穫まで実践し、大根、アカシソ、黒豆の種を蒔き、サツマイモ、白菜の苗を植えた。サツマイモは10月8日に収穫し、一部をふかし芋にして秋の味覚を味わった。また、シソジュースを作り参加者で試飲した。

花・ナギナタコウジュ
絵・加々美 豊



明科庁舎オープン二周年記念イベント 世代を超えて賑やかに



9月27日、市民と行政の協働組織「明科いいまちつくろうかい!!」の主催で明科庁舎オープン一周年を祝うイベントが開かれた。

大道芸人のサンキュー手塚さんのパフォーマンスで開幕。子どもたちによるダンス、市消防団音楽隊の演奏にはアンコールの声があがり「わが町明科」が演奏された。外では焼そばの早食いや、ラムネの一气飲み子どもたちの人気が集。明科高校生徒の応援もあり、世代一体感のある楽しい1日を過ごした。

大歓声のなか 穂高神社御船祭り

おふね

9月27日、穂高神社の例祭・御船祭りが秋晴れのなか行われた。この祭りは県無形民俗文化財指定になっており、御船には歴史場面の穂高人形が飾りつけられる。大人船は2艘あり、今年は、穂高区の睦友社が「大江山の酒天童子を退治する源頼光」、穂高町区と等々力町の建壮団が「佐藤継信の最期」を、それぞれ題材とした。



町内を引き回された子供船3艘、大人船2艘が南神苑に集まり、午後3時に祭典が始まった。氏子総代に先導され、子どもたちが子供船を曳いて境内に入り神楽殿を大きく3周して去ると、次に「佐藤継信」を飾る御船が入り2周した。そこに「源頼光」の御船が入り、ぶつかり合いが行われた。両御船の中では子どもたちがお囃子を奏でている。

カメラを手にした人も多く、御船がぶつかるときには一斉に歓声があがっていた。



子ども船の入場



大人船のぶつかり合い

私は一生懸命



原 きくいさん
明科社交ダンスクラブ副会長
(明科萩原)

衣装を変えてステップを踏みはじめると、日常の生活と異なった世界が心の中に広がっていく。ご主人の転勤9回、全国を回ってきて落ち着いたのが明科萩原、3人の子どもは社会人、ダンスクラブ会員募集のチラシに出会ったのが13年前。相模原にいた時足型(踊るときの基本的な足の運び方)を練習してあったのでためらわず入会した。

今は16人のクラブ員とともに毎週日曜日午後7時から9時半まで明科公民館でステップを踏んでいる。今年からクラブの副会長を務め、多忙ではあるが日々が楽しいと、明るい声で話してくれた。



あやめまつり、芸文協の集い、明科地域文化祭、総会のアトラクションなど年4回の出演のほか、老人福祉施設等にそれぞれ年2回のボランティア訪問を行っている。デイサービスに來所する皆さんが華やかな衣装に気を取られていると、ラテン系のリズムが流れ出す。ルンバ、ジルバ、チャチャと続く曲に自然と体が小さく揺れている。楽しい時間の一体感を感じる瞬間だと話す。

入会希望者は平野臨 画 69・2414まで

万人壹句

学校の 花壇の始末 熊倉 曾根原 幸人
豊の秋 菊日和
湯治の客の 安曇節 一日市場 安曇野 八戒
―俳句・短歌の作品をお寄せください―

〒399-7102
安曇野市明科中川手 2914 番地 1
教育部生涯学習課内
公民館報編集事務局 宛
TEL.62-4565 FAX.62-3525
E-mail:shogaigakushu@city.azumino.nagano.jp
次回は文化祭特集のためお休みします。
次の掲載は3月4日発行、2月4日締め切りです。

古きを尋ねて

⑮ 穂高神社嶺宮 みねみや

穂高神社の嶺宮は奥穂高岳山頂にまつられており、安曇野市穂高には本宮、上高地明神池畔には奥宮がおまつりされています。

古代安曇族が遠く北九州よりの地に定住することとなり、祖神と称えまつられる穂高神社は、江戸時代にはすでに天孫降臨信仰の影響も強く『信府統記』(1724(享保9)年)に「穂高大明神は往古神合地(上高地)穂高嶺に垂迹なり」とあります。その信仰により穂高岳という山全体を崇拜してきたことから、大正末期から昭和初期には小祠が建立され、後に「日本アルプス総鎮守」とも称せられ、多くの登山者を見守り続けています。

しかし、当初木造の祠は頂上付



ヘリコプターで降ろされる600kgの石祠

近の激しい風雪に破損著しく度々建て替えが行われていた中で、山頂には穂高岳山荘の祠がまつられ、当社嶺宮はその下にまつられていることから目に付きにくく、近年、冬季降雪に埋もれ不浄に曝されておりました。

神社としてはこの劣悪な状況を打開すべく昨年春より山小屋関係者等へ理解を求め、同山荘からは全面的な協力を得て、山頂の祠を山荘へ移設、新嶺宮を建設することとなり、関係所轄庁へは昨年初冬閉山後より申請を始め、今春ようやくめどが立ちました。

間口86cm、奥行96cm、高さ120cm、屋根部分は当社社独特の形状を施した石造りで、去る7月3日、ヘリコプターによる輸送によって600kgを超える石祠が無事設置がかない、同行した神職等により遷座祭が斎行されました。

27日には記念登拝が行われ、参加者約30人が祝いました。また、元の嶺宮は本宮境内へ移設され、嶺宮遷拜所としてまつられるべく計画されています。

(穂高神社 祢宜 保尊 勉)



無事設置された嶺宮

グループ紹介

堀金ラージボール卓球クラブ

「堀金ラージボール卓球クラブ」は2004年4月に結成し10年の歴史を刻む市内唯一のラージボール専門の卓球クラブである。20代から80代まで幅広い年齢構成で31人の会員が毎週2回の練習日にラリーやゲームを楽しんでいる。

規約の最初に「生涯にわたりラージボールを使用した卓球を楽しむ、運動不足を解消すると共に、スポーツを通じて地域住民の融和と交流を図る」と、明確に趣旨をうたっている。50年に及ぶ硬式卓球生活を送ってきたベテランや、初めてボールに触れる初心者もいて、スポーツができる喜びを享受しながら健康を楽しんでいる。

ラージボール卓球は、競技者以外の一般市民への卓球の普及を目標に、日本卓球協会が1988年に新卓球として規約を制定し発表されたニュースポーツである。喫茶店の片隅で普段着のまま気楽に親

櫻

大自然の驚異と人の力を思い知らされる出来事の目に付く機会が多くなった◆登り歩いた記憶がわずかに残る御嶽山の突

然の噴火や、巨大台風の襲来と、自然が起す災害は後を絶たない◆自然界は、災いばかりではなく、人類を潤す稔りの大地であり、宇

しめるイメージとは違ってきたが、ボールの直径が硬式より4mm大きい44mm、重量は2.7gで5g軽く、2m高い17.25mのネットのためスピードが出ず、ラケットは表ソフトラバーで、回転量が少なくラリーが続くので中高年の愛好者が多い。

市民スポーツ祭、県選手権等が入賞者を輩出する一方、毎年クラブ内のシングルス大会、ダブルス大会を開き、冬季はクラブ内で団体チームを編成し、リーグ戦を開いて盛り上がりを見せている。地区体協に加盟して運動会等の行事に参加し、アルプス花街道等、地域の活動も行う。

会長 山口 73・4350
事務局 猿田 73・4660



宙では皆既月食の神秘を見せたりもする◆人類の英知も豊潤で日本の偉人達による光の発見が21世紀を照らす◆誕生10年を迎える安曇野市を照らす光は、故郷に生きる人々の輝きだ◆世代を超えて受け継がれてきた、何処までも深い安曇野の自然の中で。(T・Y)